



物申す札幌市北区 支部の伝統

札幌市医師会北区支部 広報部長
どい内科クリニック 院長
土肥 勇

札幌市北区支部は昨年4月でその設立から30周年を迎えました。当支部は札幌市3番目に広い北区をカバーしており、当初153名で始まった会員数も今年は350名を越えるまでになりました。当支部は「物申す北区支部」と言われるように、人数が多いだけでなく積極的に医師会活動に参加する会員が多く、特に医政問題では医師会内で数多くの発言・提言があることでも知られております。これは、今まで北区支部の発展を支えてきた歴代支部長のリーダーシップにより育てられてきた伝統で、今もその精神は当支部に生き続けております。今回は、その活動の一端をご紹介します。

当支部は「会員相互の和」をモットーに活動しておりますが、その一つの役割を果たしているのが支部広報誌である「北区支部かわらばん」です。名称を「かわらばん」としたのは、当初の発刊の目的として支部内の広報にとどまらずに、目まぐるしく変わる医療情勢に対応するべく医政問題について迅速に会員に情報を伝達し、また会員から広く意見を集めることを意図したからでした。当初は速報性を重視し2ヵ月に1回の発行でしたが、諸般の事情により現在は年に2回、約60頁に落ち着いております。速報性という点では当初より劣りますが、地域の話・写真記事あり、各科の専門解説、医政記事、会員の広場ありと、支部の広報誌として豊富な内容を誇っており、今でも当初の考え方が各所に反映されています。

医政問題についての取り組みでは、「医政なくして医療なし」との観点から医政勉強会を年に2回実施しています。TPP参加問題、消費税の増税、医療費抑制政策など、最近の医療政策には目が離せません。当支部には平成22年度に発足した情報企画室があり、ホットニュースは「北区支部ネットワークシステム」を用いて支部会員へすみやかな情報提供がされるよう確立されています。ネットワークシステムはメーリングリスト、メール送信、FAXを組み合わせたもので、相互に迅速な情報共有ができるシステムです。情報企画室がネットワークシステムを管理するとともに医政情報を常にチェックしており、医療政策に関わる膨大な資料を分かりやすくまとめて会員各位に提供しております。

また、医師会活動の活性化には支部会員間の交流も欠かせません。そのための試みとしては、お互いの意思が疎通しやすいように支部内の班を少人数化しています。また、交友を深めるために、ゴルフ大会、ボーリング大会などの支部独自の親睦会を主催しています。また、役員会に一般会員も参加できるようにオブザーバー制度を設けて、医師会活動に参加する機会を少しでも増やすような工夫をしています。

以上のような取り組みを続けている当支部ですが、それでも多くの会員の積極的参加を得るのは難しい現状があります。医師の使命として、目の前の患者様の健康を守る、病気を治す、癒すことが第一であると皆様考えられていると思いますが、それを実現する過程には医療政策が深くかかわっており、行政に現場の声を支部会から発することはとても重要です。また、地域の人々の健康増進・教育活動などの社会貢献を行うには医師間の協力・分担が必要で、それには医師会活動が欠かせません。少しでもこのことが分かってもらえるよう、これからも微力ながら医師会広報活動をさせていただきたいと思っております。



北区支部かわらばん第78号